

岩手県立図書館4階レイアウトの変更

1 レイアウト変更の必要性

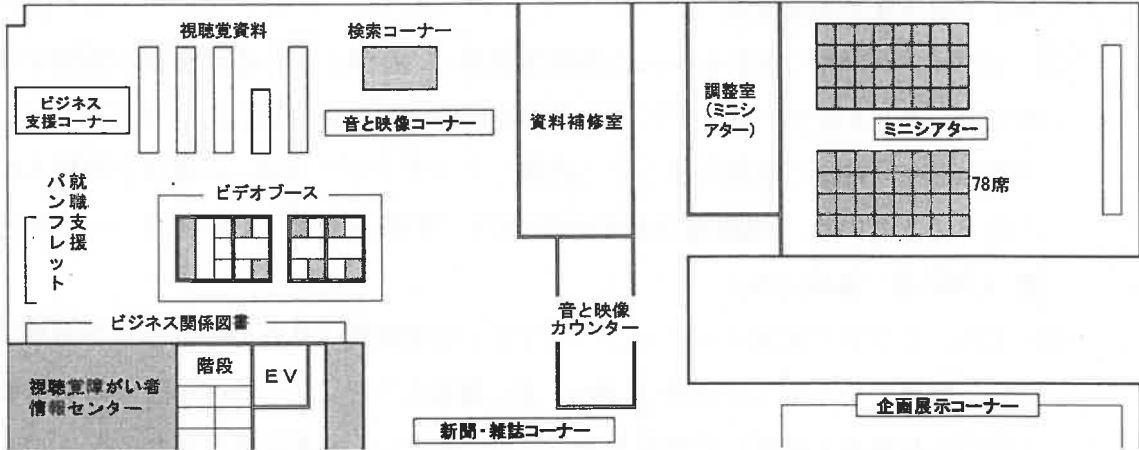
- (1) ビデオテープやDVDといった視聴覚資料は、書籍とともに図書館が提供すべき物であるが、インターネットによる動画配信サービスが発達した今日において、その場に滞在しながら視聴できるよう設置したビデオブースは、以前ほど利用されなくなっている。(視聴覚資料の館内利用：平成18年度 11,673点 → 令和元年度 3,903点 ▲66.6%)
- (2) また、ビジネス支援コーナーについては、地域課題（県内での起業及び就職）の解決支援策の一つとして平成22年11月に開設したところであり、国の事業を導入しながら相談員を配置した時期もあったが、現在では関連図書や資料の配架に止まっている。
- (3) 当館は、多くの県民にとって身近な存在であるべきであり、また、地域の情報拠点として現代的課題の解決に貢献することが期待されている。変化する県民ニーズに一層的確に対応するためには、当館の決して広くないスペースの効果的活用が急務であり、時代にそぐわなくなった利用方法を改めるためのレイアウト変更が必要である。

2 レイアウトの変更案

- (1) ビデオブースは完全に撤去する。ただし、視聴覚資料を貸し出すサービスは継続することから、試聴できる場所を別に設ける。
- (2) ビジネス関係図書を3階の開架に移すとともに、4階の書棚には3階の震災関連資料並びに視聴覚資料のうち震災及び郷土関連を排架する。
- (3) 上記により確保したフリースペースについては、次のような目的での活用を検討する。
 - ア 東日本大震災津波から11年が経過し、伝承の風化が進行していると言われる中、本県独自の教育活動である「いわての復興教育」を支援するため、例えば、副読本に加えて当館の所蔵資料を用いた児童生徒のグループ学習の場とする。その場合、隣接するミニシアター（78席）の併用も考える。
 - イ 県政150周年を迎えた県の各部局や国の出先機関、NPO法人等と連携し、県民に理解を促したい様々な現代的、地域的テーマ（県民計画にある10の政策分野等）に関するパネル展示等を行う。

3 レイアウト変更のイメージ図

(1) 現状



(2) 工事後 (イメージ)

